

第10回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会事務局」 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株)サクラレパス内
TEL:(06)6910-8800 FAX:(06)6910-8837

2009年3月発行

2009年 新年交流会

松浦 真樹

1月17日の土曜日今年の新年交流会が、日本語教育センターで開かれました。当日はお天気にも恵まれ、例年になく多数の里親・里子が参加してくれました。西村代表幹事の挨拶に続き、田間さんに乾杯の発声をお願いして交流が始まりました。以前の里子も加わって皆さん和やかに歓談をしていました。

アトラクションは「寿三番」「黒田節」の日舞で幕を開け、恒例となったハーモニカ演奏、サウジアラビア、内モンゴルの留学生による踊り、中

国の留学生による胡弓演奏と続き皆さんからの温かい拍手がいつまでもなりやみませんでした。続いてはお楽しみの「ビンゴゲーム」で盛り上がり、名残惜しくはありましたが日本語教育センターの唐澤さんによる閉会の挨拶でお開きとなりました。

いつも、里子が心待ちにしている着物の着付けをしていただいている児玉さんはじめ、準備をお手伝いいただいた皆様に紙面をお借りしてお礼を申し上げます。来年も楽しい新年交流会が開けるようがんばりたいと思っています。



里親

一 走れ！黄君一

私達は昨年7月、初めて里親として黄エルン君を紹介されました。予め登録書を頂いていましたが、対面の会で初めて会った時は少々驚きました。と言うのは彼は写真と違い巨漢で、暑い中、地下鉄3区間を自転車で走って来て、流れる汗が止まらなかったからです。そんな彼を私達は少し不安な気持ちで見えていました。しかしその不安もすぐ消えてしまいました。彼は体格に似合わず、礼儀正しく控えめで優しい物腰。母国台湾での育ち方、教育が影響しているのでしょうか。日本語も上手く話し、難しい漢字も書けるのには驚きましたが、台湾は漢字の国だと後で気づきました。また日本の歴史に興味があると言い、時には鋭い質問も受け私達もうかうかしてられないので改めて歴史の本を見るようになりました。

秋の天橋立への交流遠足は好天に恵まれ楽しく過ごしました。神社では初めておみくじを引き、「小吉」の書かれている内容を説明すると真剣に聞いていました。

私達は二人ともリタイヤしていますが、なにか少しでも世の中に役立つ事はないかと考えていた

山中 博樹・まさ子（大阪市）

折、知人からこの里親の会のことを聞き早速申し込んだのでした。今回黄君から台湾の文化、言葉、中国との違いなど学べたらと思っています。彼が興味を持つ日本の歴史的な場所に案内したいと思うのですが巖島神社に行きたいと言われた時は「遠すぎる」と返答に困りました。

彼は今、大学院の入試に専念していますが、母国へ戻った際は学んだ経営学を生かしお兄さんと共に御両親の会社で働くと思いを聞き台湾という国の将来がこの様な若者に託されているのかと羨ましく思えたのでした。外国の若者に接する機会が得られ、自分の国を見直すきっかけになれば、これからの人生も有意義に過ごせそうです。この様な機会を作つてくださった、世話役の皆様のご努力に篤くお礼申し上げます。



一 私のボランティア活動一

牧山 輝雄（奈良市）

「留学生さとおやの会」などこの様なボランティア活動を始めてからもう何年経ったのであろうか。私が30代で外資系の企業に転職した後、5～6年過ぎた頃からこの種の活動を始めたと思う。即ち、そこでの企業の外国人との個人的交流で、その国の文化や生活環境を垣間見て、益々、外国に興味を抱き始めた頃であろう。その上、娘が高校1年の時、AFS (American Field Service) で豪州に留学し、そこで1年間、ボランティアのホストファミリーに本当にお世話になった。その事がお返しを込めて、この様な「草の根の国際交流」を始める端緒となった。元々、学生時代から地理が大好きであった影響もあるだろう。

そこで、現在、在住の奈良市を始めとし、大阪府・大阪市、京都市などの公的な国際交流協会のボランティアメンバーに登録した。その中の一つが当時、大阪商工会議所が実施していた「留学生里親の会」であった。



しかし残念ながらこの会は諸般の事由により解散となった。所が直ぐに、この「国際交流の灯」が(株)サクラクレパス社長 西村貞一様の期する所により、再び「留学生さとおやの会」として甦り、私も西村様の信念、使命に共感してこの会に加入させて頂く事になった。その結果、お陰様でインドネシアからの留学生クルニアワン・リサンディさんを里子としてご紹介いただき、微力ながら彼を応援し、楽しい交流生活を過ごさせて頂き、現在に至っています。尚、彼はこの4月から大学に進学することになりましたことをご報告致します。



里子

ダニーロ R メロ (ブラジル)

I am sending now my impressions of the new year's party:

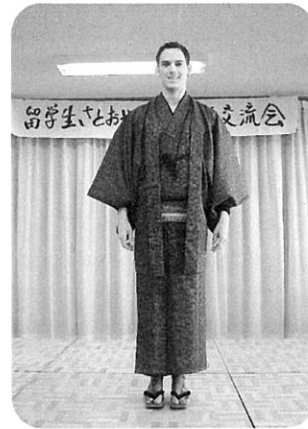
"I think the New Year's party was very fun. To start with, it was the first time ever I had the opportunity to wear a Kimono since I arrived in Japan. It was very interesting, and this was one of the high points.

The organization was also very well planned, everything worked properly. The presentations by the students gave a nice overview of their own cultures, which was very positive and enriching.

The food was also very good, as well as the

Bingo - even though I was one of the last to finish a line, I still could get something!

Overall, I only have positive remarks to make, and I take this opportunity to thank everyone involved in making everything possible."



ー里親の皆さんへー

ベロニカ アンサナ (インドネシア)

私は新春パーティに参加させてもらって、本当に嬉しかったです。というのはホストファミリー



やいろいろな国の人に会って、いろいろな演奏がきけたからです。その時初めて着物を着る経験もできました。貸してくれた着物は本当にすてきな着物でした。私は着物の着方が分かりませんが、一人の里親の方が手伝っ

てくれました。

それに、日本の踊りやモンゴルの踊りも見ました。すばらしかったです。私は日本に来て以来もう9ヶ月になりますが、日本の踊りを見る経験がなかなかありませんでした。だからその時日本の踊りが見られたのはとてもよかったです。

私はそんな交流はとてもいいと思います。日本の文化だけでなく、ほかの国の文化も知ることができるし、日本語の練習もできます。またこんな交流がある時、ぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。

ワン・ワールド・フェスティバル

今年のワン・ワールド・フェスティバルは開催時期が変更となり、年末12月20日と21日に開催されました。年末ということも手伝ってか、少し入場者が少ないような気もしましたが、里親・里子の皆さんにお手伝いいただき、楽しく参加しました。ご協力いただきました皆様、どうもありがとうございました。



天橋立へ交流遠足

10月11日土曜日、総勢55名、満席のバス1台で天橋立へ遠足に出かけました。一週間ずっと天気予報の雨マークが消えず、当日の朝もシトシト雨が降り続き、どうなることやら？と不安でいっぱいでしたが、集合時間には雨も上がり、天橋立に到着する頃にはすっかり良いお天気になりました。

まず天橋立棧橋から天橋立観光船に乗り、松並木で繋がる天橋立を横目に対岸の一の宮棧橋を目指します。船中では船に寄ってくるカモメに手渡しでエサをあげて、楽しみました。一の宮棧橋に降りた後はお食事を取り、その後ケーブルカーで傘松公園へ。ここでは天橋立の松並木が海の上に「斜め一文字」に眺めることができ、天橋立を見下ろす絶景の展望所です。また、有名「股のぞき」の名所でもあります。天橋立を股の間からのぞくと天地が逆転し、まさに天に

架かる橋のように見えるとか。もちろん、みんな揃って股のぞきに挑戦してみました。

その後は宮津にある関西電力の魚っ知館に行きました。泳ぎ回る魚たちの姿を海中散歩気分で観察できる大水槽をはじめ、大小さまざまな水槽に丹後周辺の海に住む魚たちなどを紹介しています。外ではペンギンとアザアらしのショーもあり、可愛い姿を見て楽しみました。

今回の遠足は少し遠出をしたので、バスでの拘束時間が長く、渋滞にも巻き込まれて大変でしたが、「滅多に行けない所に行く事ができてよかった」という声もいただき、ホッとしています。また、終了後にお問い合わせしたアンケートでは色々な要望も寄せられました。来年も楽しい計画を立て、たくさんの皆さんにご参加いただきたいと思っています。どうぞお楽しみに。



編集後記

編集局長 田間貞雄

留学生さんとおやの会の「里親・里子だより」の第10回発行の原稿を里親・里子の方々からお寄せいただきまして有難うございました。

第1回の発行は2004年3月で、2008年10月に第9回を、そして2009年3月に第10回の留学生里親・里子だよりの発行となりました。

第9回発行後の行事としては、10月11日(土)のバスで天橋立へ、そして笠松公園の股のぞきなど日本海の美しさを満喫した一日でした。12月20日と21日には毎年恒例のワン・ワールド・フェスティバルに参加、里親・里子の皆さんにお手伝いをしていただいた二日間でした。

1月17日(土)は新年会で今年も大勢の里親・里子の皆様で楽しく会場が盛り上がりました。

これから、第11回の里親・里子だよりの発行に向けて、里子の皆様から沢山のお話や習慣の違いで困ったことなど、また、有意義なアドバースやトピックスなどをお寄せいただきますようお願いいたします。

里親と留学生との絆は何時までも続き、終わることはありません。会報を通じて、この事業が広く地域の皆様にご理解をいただくために努力したいと考えています。